



札幌チューリップ公園

チューリップ 四季だより

随筆

『オランダのチューリップと私』

東京農業大学農学部教授 今西英雄



キューケンホフ公園

チューリップとの最も感動的な出会いは、やはりオランダのキューケンホフ公園になるだろうか。一九八二年、研究のためオランダのワーヘニンゲン大学に一年間滞在し、初めて訪れた時の印象は強烈であった。水面に映える運河べりに植えられた色とりどりのチューリップ、ムスカリの紫色との鮮やかな対比を示す、あるいはサトザクラの下に咲くチューリップと、すべてが新鮮で、これまでのチューリップ感がすっかり覆る思いであった。その後、何回か訪れ、園内をゆくりみてまわる余

裕が出てくると、新しい品種だけでなく、一六〇〇年代に作出されたという古い品種が展示されているのに気付いて驚いたこともあった。ホルツス・バルボラムという球根保存園からの展示であった。そこで、その保存園まで出かけて写真を撮っていたところ、通りがかったオランダ人がこれが一九五五年に作られた最古の品種であると、親切に教えてくれたことがあったが、真偽のほどは未だに分らない。

最新の品種登録リストには、五千を越す品種が載せられている。その中では、ダック・ファン・トール・レッド・アンド・イエローという品種が一六二〇年に作られたとある。チューリップの育種が始まったのは、一五九三年にかのクルシウスがライデン大学の教授に赴任してからとされている。したがって、この品種は彼により導入されたものに近いことになる。クルシウスの像がライデン大学の付属植物園にあるときいたが、写真を撮った記憶がない。よく調べてみると、平日しか開いていない場所にあることが分かり、四年前にやっと撮ることができたのも、チューリップにまつわる思い出の一つである。

多数の野生種が収集・保存されていたのは、ワーヘニンゲンの当時の園芸



▲ダック・ファン・トール・レッド・アンド・イエロー 'Duc van Tol Red & Yellow'

育種研究所であった。大学の近くにあるので、自転車を通って、珍しい原種を次々とカメラにおさめることができた。このような野生種を保持している底力には驚いたが、これらを利用して、さまざまな系統の品種が育成されているとは思いが及ばなかったような気がする。

この年、一九八二年にはフロリアードが開かれていた。そこでの展示やキューケンホフでの植栽をみた記憶をたどっても、今日みるような多様なチューリップの姿が浮かんでこない。当時

のオランダでは、ダーウィン・ハイブリッド系のアペルドーンなどが主力の品種であり、花が大きいことだけが印象に残っている。一方、わが国の当時のチューリップといえば、小型のダーウィン系で、花色もほとんどが赤、黄であった。

多様なチューリップ品種が導入されるようになったのは、大阪の花の万博を契機に、一九八八年以降、オランダからの球根輸入が自由化されてからである。チューリップのイメージがすっかり変わり、切り花の生産が一億本を越えるようになったのはごく最近のことである。そのきっかけとなったのは、品種ピンクダイヤモンドである。この品種の淡いピンクを西欧人は好まない。ある年、日本向けの輸出許可を得るため、オランダの現地で行われる検査で、この品種を栽培している圃場が不合格とされた。このため、この圃場から収穫された球根を日本に輸出できず、販売先がみつからずに輸出業者が苦労していたことがある。西欧人が好むのは原色の赤、黄色である。その後のユリ

咲き、フリンジ咲きなど、珍しい系統のブームも日本人が先鞭をつけたのではないだろうか。

チューリップの新しい品種を育成するには、二〇年近い期間が必要とされる。日本人がピンクの花色を好むからといって、育種を始めたのでは輸入の自由化に間に合わないはずである。さまざまな育成系統を一万球程度の規模で維持し、消費の動向を探りながら増産に入ると聞き納得した。

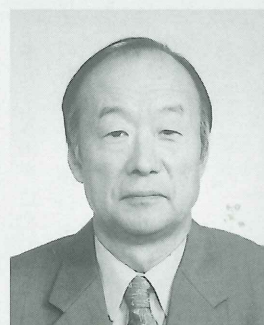
チューリップの球根に植物ホルモンのエチレンを処理すると、開花率が高くなり、開花が数日早くなることを国際会議で発表したことがある。その時、私どもは開花が早くなることを重んじていたが、オランダ人は開花しないはずの小さな球根がこの処理で開花に至ることに高い関心を示した。

花を一年早く咲かすことができれば、育種の年限が短縮できると考えたわけである。彼らにとつては、やはり育種が最優先であることを思い知らされた次第である。

我が国でも、富山県の野菜花き試験場には、三千近い品種が保存されており、新しい品種の育成が着々と進められている。近い将来、オランダに負けず、日本人の好みを先取りした品種が発表されることを期待している。

【略歴】

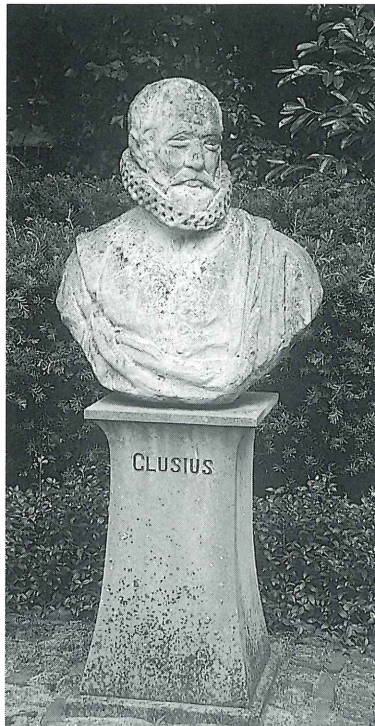
いまとし ひでお



一九四〇年生まれ。

京都大学大学院農学研究科修士課程修了後、京都大学農学部助手を経て、一九六五年大阪府立大学農学部に移り、一九八八年より花卉学（後に観賞園芸学）教授。本年三月末に退職し、四月東京農業大学農学部教授となり、農学科園芸科学コースで人間植物関係分野担当。

主な著書に「花卉の開花調節」（共著）、「花卉園芸」（編著）、「園芸種苗生産学」（編著）、「花卉園芸学」（単著）など。他多数。



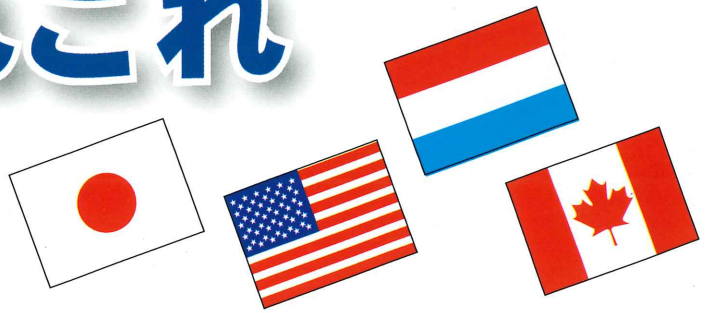
▶ライデン植物園 クルシウスの像



▲チューリップの原種 *Tulipa clusiana*



2002 チューリップ祭 あれこれ



アメリカ

『スカジットバレー・チューリップ・フェスティバル』

アメリカ、ワシントン州スカジット地域において、「スカジットバレー・チューリップ・フェスティバル」が毎年開催されています。

今回で十九回目を数えるこのフェスティバルは、今年は四月五日から二十一日までの十七日間開催され、チューリップをはじめ、スイセンやアイリスなどの花々がその地域一体を埋め尽くしました。

昨年の第五十回となみチューリップフェアにあわせてフェスティバル実行委員会の会長夫妻一行が来訪され、今年は、砺波市長をはじめとする訪問団がチューリップを縁とした交流を深めるため、スカジットバレーを訪れました。

『チューリップ栽培のはじまり』

スカジットバレーはアメリカのシアトルとカナダのバンクーバーのちょうど中間に位置します。



切り花の発送準備

▼スカジットバレーのチューリップ畑



一九二六年以降入植したオランダ人は、この地の温暖な気候を利用して球根栽培を始めました。これをきっかけに、この地でチューリップ栽培が盛んになり、戦後には、オランダやイギリス、日本から球根栽培を目的に人々が集まり、ますます発展していきました。

現在では、産業としての球根栽培にとどまらず、美しい花を楽しむイベントや、切り花の全国発送も行っています。このフェスティバルは、年々規模も拡大し、今では、ワシントン州、そしてバンクーバーに春を告げる一大イベントとして定着しています。

『見どころ』

このフェスティバルの中心は、スカジット地域全体に点在する広大なチューリップ畑です。ワシントンバルブ社には、最大の規模を誇る約一千ヘクタールもの栽培畑や観賞用ガーデン、ローゼンガータがあります。また、ワシントン州北西部の球根栽培の歴史がわかるチューリップ歴史博物館や室内ガーデンも楽しめます。

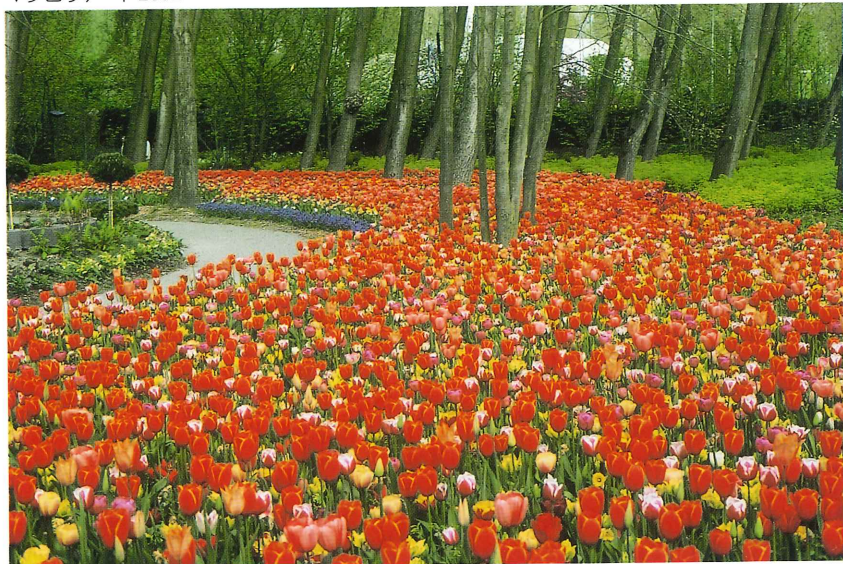
その他、チューリップ畑を空から楽しめるフラワーフライトやチューリップツアー、バッファローツアーなど、大人も子供も楽しめる様々なイベントが開催されています。

オランダ

『フロリアード2002』

今年四月六日に、オランダで十年に一度開催される国際園芸博覧会「フロリアード2002」がオランダ、ハーレマミアで開幕しました。

約六十五ヘクタールの会場内には、国外から日本を含め三十三カ国の参加があり、十月六日までの期間中約三百万人の来場者が期待されています。



日本からは農林水産省担当の約二百五十平方メートルの屋内展示と、国土交通省が担当する約千二百平方メートルの屋外展示が展開されています。

富山県花卉球根農業協同組合から富山県育成のチューリップがオープンと同時に展示されました。コンテストに出品された、白雪姫、や、紫水晶、新拓、など県内育成の八品種は惜しくも入賞は逃しましたが、多数の来場者の目を惹きました。

十月六日までの期間、約四十回にわたり、その季節に合わせたテーマ展示が行われる予定です。十年に一度の花の博覧会、花いっぱいオランダへ出かけてみてはいかがでしょうか。

(資料提供／財団法人日本花普及センター)



▲日本政府出展 屋内展示

カナダ

『カナディアン・チューリップ・フェスティバル』

今年の「カナディアン・チューリップ・フェスティバル」は、五月三日から二十日までの十八日間、メイジャーヒルパークを中心に開催されました。

今年で記念すべき第五十回を数え、記念式典には、このフェスティバルにゆかりのあるオランダ王国マーガレット王妃を迎え、華やかに開催されました。

その中で、「2002ワールドチューリップサミット」が開催され、日本(砺波市)やイギリス、オランダ、アメリカ、フランス、オーストラリア、トルコ、カナダの世界八カ国が参加し、英国の作家で「The Tulip」(四季だよりVol.19参照)の著者であるアンナ・パヴォードさんの基調講演の他、各国出席者の発表が行われるセミナーが二日間にわたり開催されました。

砺波市からは、砺波市助役らが参加し、「となみチューリップフェア」の運営方法やチューリップの周年開花法、水上花壇での栽培法などが発表されました。発表後、オーストラリアやイギリスの参加者から質問があり、水上花壇やチューリップの促成、抑制栽培に強い関心が示されたとのことでした。

その後、三百六十名の参加による晩餐会が開催され、その席上で、「カナディアン・チューリップ・フェスティ



▲チューリップ勲章

バル」の発展と成長に有益な役割を果たした個人として、オタワ市長より、当市の助役をはじめ七名にチューリップ勲章が授与されました。

「第五十回カナディアン・チューリップ・フェスティバル」は「ワールドチューリップサミット」の参加者代表九名によりチューリップを通しての国際親善を宣言し閉幕しました。

(第六頁へ続く)



▼五連水車



日本

『2002となみ チューリップフェア』

昨年第五十回の節目を終え、今年か

らまた新たなスタートとなった「2002となみチューリップフェア」は、「散居にひろがる花のまち」をテーマに四月二十五日から五月六日までの十二日間、砺波チューリップ公園を中心に開催されました。

例年がない暖冬のため、全国的に桜をはじめとするあらゆる花の開花が一週間から二週間早まり、チューリップの開花も大変心配されていましたが、しかし、冬に花壇に雪をかけたり、遮光ネットを設置した他、畝間にパイプを設置し水を通すなどの抑制の効果もあり、五割程度の開花で開幕を迎えました。期間中も花の入れ替えにより、会期を通して美しい花を楽しむことができました。

プレイベント期間の四月二十日から、本会場より五キロメートル離れた五・四・クタールの柳瀬会場において、百六十万本のチューリップ

▼チューリップ四季彩館 特別企画展「散居の花物語」

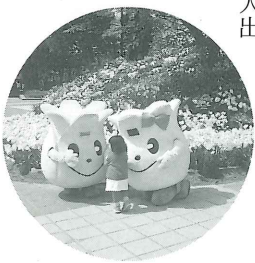


が一面に咲き誇りました。また、公園内には、池の縁や木々の足元などにも新しく花壇が作られるなど、様々なチューリップの表情を楽しむことができました。

今年のテーマである「散居村」をより多くの人々に知ってもらうため、チューリップ四季彩館では、チューリップで砺波の四季の移り変わりを表現した特別企画展「散居の花物語」が開催

された他、砺波市文化会館大ホールでは「散居村〜一ヘクタールのユートピア〜」が上映されました。

その他、砺波市美術館では開館五周年記念として「日本陶磁五〇〇〇年の至宝」が、砺波郷土資料館では「砺波地方の二十世紀―パート四―食の歴史」が開催されるなど様々なイベントが行われ、期間中約三十万人の出入



▲砺波チューリップ公園

『チューリップ・インス・プレーションの泉の四〇〇年』

〈パートI〉

ヨーロッパへチューリップが紹介されてから四百年を記念して、オランダ・リッセ市のチューリップ博物館において発行された、チューリップの文献、『De tulip (チューリップ) — インス・プレーションの泉の四〇〇年』は、チューリップの伝播からその時代ごとのチューリップの歴史について詳しく書

かれています。

その内容について数回に分けてご紹介します。

『野生チューリップの伝播』

チューリップの起源は中央アジアで、代表的な野生種の約四割が西天山山脈



▲チューリップの起源と世界への伝播

からパミール高原までの山岳地帯を起源としています。この地域はチューリップにおける、遺伝の中心で、チューリップの発生地として最もふさわしい場所であったのです。

チューリップは、はるか昔からその中心地から様々な方角へ伝播してきました。

主な方向としては①北及び北東方向—シベリア、モンゴル、中国 ②南—カシミールとインド ③西—アフガニスタンとイランを経てコーカサス地方への三つが挙げられます。コーカサス地方は好適な条件のため遺伝における第二の中心地と言われています。野生種の約二割がこの地域を起源としています。

そして、黒海やトルコ共和国、バルカン半島へ、さらにはヨーロッパ中部から西ヨーロッパへと広がります。現在では、ギリシア共和国やブルガリア、ルーマニア、バルカン諸国、ハンガリー、イタリア、オーストリア、スイス、フランス、スペイン、ポルトガルにおいても野生チューリップに出会うことができます。野生のチューリップは、特に山岳地帯に多く生息しています。

また、コーカサス地方からわずかではありますが、イラクやシリア、レバ

ノン、イスラエル、エジプト、アルジェリア、モロッコにも伝播しました。オランダへは大半が黒海周辺地域やクリミア半島、ステップ地帯、コーカサス北部から伝播しています。この地域の一部は、当時、オスマントルコ帝国が支配していました。そして、十六世紀の末以降、最高峰のチューリップがオランダへやってきますが、この頃の伝播は、人間の手から手へ行われたものでした。

(次号へ続く)



チューリップ四季彩館
からのお知らせ

○夏季特別企画展

『ふるさとの四季を描く 原田泰治の世界展』

となみ野の散居村をはじめ日本各地を旅し、ふるさとの暮らし・去りゆく思いを描きつづけ、語りかける原田泰治の世界。

砺波市内風景「苗床」を含む約80点を展示します。

- と き:8/24(土)から9/16(振休)
- ところ:チューリップ四季彩館・砺波市美術館
- 期間中入場料(2館共通)

区 分	当日券	前売券
一 般	800円	700円
大学・高校生	600円	500円

*中学生以下無料



▲「苗床」

原田泰治サイン会

8/24(土)、25(日)、31(土)、9/1(日)

①午後1時～ ②午後3時～ *各回先着80名様限り



チューリップ四季彩館
TONAMI TULIP GALLERY

2002年7月発行
財砺波市花と緑の財団 〒939-1381 富山県砺波市中村100番地の1
TEL 0763-33-7716・FAX 0763-33-0090
URL <http://www.city.tonami.toyama.jp/>
<http://www.tulipfair.or.jp/>